



日本プライマリ・ケア連合学会  
中国ブロック支部



発行人:中国ブロック支部長 松下明  
(岡山家庭医療センター 奈義ファミリークリニック)

## 『2020年度中国プライマリケア学生交流会』

鳥取大学医学部医学科 5年 長尾拓海

文責：宇部興産中央病院 総合診療科 松本翔子

コロナ禍の中で開催となった2020年度の中国ブロック支部プライマリ・ケア交流会の報告をいたします。

中国地方の医学部の学生を中心に企画され、中国ブロック支部からご支援いただいている企画です。この交流会は、大学の垣根を越えてプライマリケアに興味・関心のある様々な学生が集まり交流することで、参加者が新しい考え方や知識を得ることができる場であり、同じ分野に興味をある学生同士で交流の輪を広げていくきっかけとなっています。今年度は地域のリソースを活用して患者が自立的に生きていけるように支援する方法として注目されている「社会的処方」をテーマとして開催されました。

今年度の交流会はオンライン開催となりました。オンラインの利点を活かし、多くの先生をお招きすることができました。

第一回は2020年9月19日に開催され、24名の学生が参加しました。講師として渡嘉敷診療所 所長 山城啓太先生、真庭市地域包括支援センター センター長 山崎博子先生、杵築市医療介護連携課 企画制作係 主査 ソーシャルワーカー 岡江晃二先生をお招きしました。

山城啓太先生には『離島のプライマリケア医』としてご講演いただき、離島でただ一人の医師として活躍されている先生から離島ならではの特徴や、その島が抱える健康問題、沖縄県でどのようにして離島での医療体制を作っているなど、離島医療全般について幅広くご講演していただきました。

山崎博子先生からは、普段学ぶ機会の少ない地域包括支援センターの役割について、実際にその場所で働かされている保健師の立場からご講演いただいた。医学生にとって福祉の分野は学ぶ機会が少ないため、多くの質問が出て盛り上がりました。

岡江晃二先生からは『「死ぬ」とはどういうことか』というテーマで、ソーシャルワーカーとして実際に先生が現場で経験した事例を紹介いただきました。病院で迎える「死」にも様々な形があり、その人らしく過ごすための多職種のサポートをご紹介いただきました。参加した学生にとっては実際に身近な人の死に直面したとき自分はどうなるのかといったことを考える機会となりました。

各大学でのプライマリケアに関する活動報告では、中国地方にあるプライマリケア関連の学生団体として岡山のOSCIA、鳥取の地域医療研究部、島根の地域医療研究会・SiPS、山口の家庭医療勉強会がそれぞれの活動を紹介し、お互いに交流することができました。

第二部は2020年12月19日に開催され、19名の学生が参加しました。講師として、医療法人光輝会 理事長 重富雄哉先生、伊是名診療所 所長 平山恭平先生、鳥取大学医学部地域医療学講座 孫大輔先生、浜田市国民健康保険弥栄診療所 所長 阿部顕治先生をお招きしました。

重富雄哉先生からは『トヨタ生産方式(TPS)・Kaizen』と題して医療にトヨタ生産方式(TPS)を応用した重富先生の取り組みについてご講演いただきました。TPSを導入して病院経営がどのように改善されたかといったことをお話いただきました。

平山恭平先生からは『離島医療×社会的処方』と題してお話をいただきました。沖縄県の伊是名島での取り組みと、離島ならではの他の地域ではみられない考え方や離島独特の問題をおしえていただきました。「島全体が1つのチーム」という島民が共通してもっている意識に大きな感銘を受けた学生が多かったようです。

孫大輔先生からは『まちのウェルビーイング』として、これまで先生が東京で実践してきた病院外での医療者と地域の人との交流活動についてご講演いただきました。病院の外にでて、まちで交流することのメリットや注意すべき点も知ることができ、視野が広がるお話でした。

阿部顕治先生からは『中山間地域の「処方箋」』とお話いただきました。診療所で自治体と共同して地域の健康を守るための取り組みをご紹介いただき、今後どのようなことが必要とされていくかを知ることができました。学生にとって将来求められることが見えた講演となりました。

そのほかに学生企画として振り返りと東洋医学について学び、東洋医学について学生スタッフから講演がありました。東洋医学独自の考え方やはり師・きゅう師の実際について知ることができ、東洋医学に関心を持つきっかけとなりました。

今回の交流会は COVID-19 の感染拡大に伴い、初のオンライン開催となりました。結果的には 20 名以上の方に参加していただき大変盛り上がった交流会になりました。オンライン開催により今まで参加できなかった遠方の学生や時間に余裕がない学生も参加しやすいという利点が見えた企画となりました。

ブロック支部からのご支援により、今年度も無事に開催することができました。来年度の開催に向けて準備をしてまいります。

---

#### 【m-HANDS 2020 第5・6・7回の報告】

中国ブロックでの指導医養成の報告

出雲家庭医療学センター大曲診療所 藤原和成

岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

#### 【m-HANDS-FDF】

(modified・Home and Away Nine DayS – Faculty Development Fellowship)

過去 5 年間にわたって継続してきた中国ブロックの指導医養成コースです。今年は新型コロナウイルス感染症の流行により、オンライン開催となりました。これまで全 5 回であったコースを、1 回の開催時間短縮に伴い、全 8 回のコースとして再編し、実施しています。

今年度も、JPCA-ML など募集して中国地方の指導医 6 名が全 8 回のコースに参加中です。6 名はそれぞれ 3 人ずつのチームを作り、様々な課題に取り組んでもらっています。

以下に第 1 回に参加してくれた指導医からの報告の一部を掲載します。

2021 年度も引き続き開催を予定しています、ご興味のある方はぜひご連絡下さい。

---

〈目的〉

中国ブロックの指導医の養成とプログラム運営の質向上を通して、プライマリ・ケアの普及と発展をめざす

〈対象〉

- ・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を修了した医師
- ・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医

〈アウトカム〉

**Core Competence : Adult Educator(成人学習支援者)**

学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる  
教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる  
学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる  
参加者と講師による学習共同体の形成を勧め、ブロック内の指導医ネットワークを作る  
机上のプログラム作成だけでなく、各現場での仕組みづくりや教育チーム形成ができる  
総合診療の魅力やプログラムの魅力を効果的に伝えられる発信力や求心力を発揮できる  
ツールの活用や工夫などで独創的で質の高い遠隔教育ができる

**第5回 オンライン開催 2020年12月26日(土)**

**【模擬ティーチング】**

領域：態度 対象：初期研修医 目標：“患者の立場”に立つことの重要性を理解する。

高齢者にDNARを取らないといけない場面設定でロールプレイ式の面談を行っていただきました。“DNARを取りたい研修医 vs. そんな話は聞きたくない患者・家族”という対立が起こり、うまくいかない体験を通して、“モヤモヤ(不全感、葛藤など)”を感じてもらうことができました。学習者から「ストレスもあったが、重要な乗り越えるべき問題だ」という振り返りもあり、実りのあるティーチングを行うことができたと感じています。

最後に“患者の価値観”に思いを寄せることの大切さをレクチャーしましたが、「態度領域なので、言語化せずに気づいてもらうほうが良かったのでは」というフィードバックもいただくことができ、教育の奥深さを実感できた回でした。(田中道徳)

**【学習評価ニュースレター】**

本セッションの目的は、「ちゃんとした学習者評価」の言語化を目指すことであった。グループディスカッションでは、基準、公平性、妥当性、学習者との信頼感が必要ではないかとの意見が出された。

医療者には人格や非言語的コミュニケーションなど、技術や知識のように点数化しにくい要素も重要である。ある意味では芸術の評価に近い感性が求められるとの意見も出され、その場合に求められる評価者の適性がどうか、といった視点での検討も行った。(長沼恵滋)

**第6回 オンライン開催 2021年1月23日(土)**

**【ビデオレビュー】**

今回で最終となるビデオレビューは、長沼先生と李が担当させていただきました。

長沼先生は初期研修医へのその日の振り返りをする様子を、李からは臨床実習1で担当している学生とのオンライン実習の様子のビデオをフェロー・指導医で視聴し、ディスカッションを行いました。

オンライン実習についてはコロナ禍において始められたもので、今回ビデオレビューで初めて取り上げられました。今後の医学教育の中でも注目を浴びる分野でもあり、引き続き工夫を凝らしながら行っていきたいと思っています。(李瑛)

**【評価計画の作成】**

このセッションでは教育活動の評価の仕方を学習した。短期間の学生指導ではBloomのタキソノミーで目標をたて過去の事例をもとに評価項目を設定するが、研修医や専攻医の教育ではMillerのピラミッドにて目標をたてマイルストーンやEPAで評価する。

グループワークでは、医学部4年生のオスキーの事例について、技術面のみの評価でなく、態度面や医師としてのプロフェッショナリズムまで評価するにはどのように工夫したらよいか、ディスカッションした。評価項目は細かくたてることはできるが、現実的には、コスト、労力、時間も兼ね合わせて、信頼性、妥当性のあるものを選ぶ必要があること、つねに最終ゴールを意識することが大事だということを学んだ。(上春美奈)

### 【プロフェッショナリズムと態度教育】

プロフェッショナル/アンプロフェッショナルと感じた事例について、参加者各自の経験を共有した。事例ごとに、どのような状況だったか、誰が関係したことであったか、何故生じたか、それによりどんな影響が出たか、事例の何がプロ/アンプロと感じたのかなどを検討した。次に、診療現場で患者から研修医に謝礼金を差し出されたという架空の症例提示があり、どのように対応するのがプロフェッショナルなのか、指導医として研修医にどう指導するか、金銭でなく物品であればどう対応するか等、チームで検討した。プロとしてきっぱりお断りするのが最良だが、断りきれないときの対応を考えたり、事例をきっかけに研修医とプロフェッショナリズムについて考えるなどの意見が挙がった。(菊地由花)

第7回 オンライン開催 2021年2月27日(土)

### 【プロジェクトマネジメント】

今回はオンラインベースでプロジェクトマネジメントを学びました。新しく教育を始めるとき、それは新たなプロジェクトを立ち上げるときとよく似ています。集まった仲間たちとどううまく“教育プロジェクト”を行うのか。私自身は、教育分野でプロジェクト立ち上げはしたことはありませんが、将来的に関わることがあれば、今回学んだ内容を生かしてみようと思います。(田中道徳)

### 【模擬ティーチング】

総合診療専門研修の専攻医6名に対して模擬ティーチングを行った。

今回、自身のグループは価値領域であり、医師のワークライフインテグレーションやジェンダーをテーマにグループディスカッションを行った。明確な学習評価が行いにくい分野であるうえ、30分という制限時間で扱うにはやや重い題材とも思われたが、学習者(専攻医)に当事者意識を持ってもらうことができ、初期の目標は達成できたと考える。

オンラインでのグループディスカッションゆえに議論が深まりにくい場面もみられ、ファシリテーターの役割の大きさも改めて感じた。(長沼恵滋)

### 【卒業制作発表】

卒業制作の発表会を行いました。7回に渡るm-HANDSで各自が学んだことを、カリキュラム開発を行うことで卒業制作としており、今回はこの卒業制作の発表会が行われました。オンラインでの臨床実習を計画したり、新たに初期研修医を受け入れることになったためカリキュラムを計画したり、既存の研修医受け入れの教育カリキュラムを見直したり、と学習者各自が向き合っている課題や状況についてカリキュラムを開発しました。

発表会では一人8分の発表と5分の質疑応答を行うことで、深めることができました。個人的には、形として一つ作ることで、カリキュラムを作ることの難しさとその方法を深めることができたとともに、他のフェローが作ったカリキュラムを見ながら、自施設での応用方法なども参考になり、大きな学びとなりました。(李瑛)

〈今後の予定〉

第8回 オンライン開催 3月27日(土)